

植野達郎先生に贈るメッセージ： 2005年度のことなど

島 高行

二十年近く同じ場所で働かせていただきながら、植野先生とは飲食を共にするとか、じっくり話をするといった機会にはあまり恵まれませんでした。こういう場にふさわしいのかどうかよくわからないおぎなりの言葉でお茶を濁すのも、それが大人というものと言われればそれまでなのだけれど、あまり気が進むものではありません。そこで思い出されるのは、植野先生が英文学学科の主任を務められていた当時、私が教務委員として働かせていただいた2005年度のこと、その思い出を書き綴ることにいたします。

本来、教務委員（現在はキャリア形成教務部門委員）は主任を支えるもので、実際、これまでこの役につかれた皆さんはその役目を立派に果たされてきていますが、文字通りに知識も能力も欠けている私ですので主任の植野先生にはずいぶんご心配をおかけしたと思います。それでも学生たちにカリキュラムの指導はしなくてはならず、教務委員の前任者の先生が残してくれた精密なマニュアルのおかげもあり、ずいぶん勉強になった一年でした。さらにはこの年は半期制の導入に伴う新カリキュラム作成という大仕事まであり、悪戦苦闘する中で、初めて学科のカリキュラムの全体像が見えてきたというのが、恥ずかしながら率直な感想でした。その間、本で満ち溢れ、雑然とした（「お前にだけは言われたくない」の声あり）植野先生の個人研究室をしばしば訪れ、いろいろなことをご相談し、教えていただきました。カリキュラムについては特に真剣で、細かなことまでゆるがせにしない先生の一面に触れた一年でした。私の無知にあきれながらでしょうが、辛抱強く指導していただいたことにあらためて感謝いたします。

これからもどうぞお元気で、また英文学学科のことも気にかけてくださいますようお願いいたします。